

6 - 5 1984年1月1日, 東海道はるか沖の深発地震(M7.3) の直後に 活発化した地震活動の例

**Remarkable Seismic Activities activated immediately after the Occurrence of the
Deep Earthquake far off Tokaido (M7.3), January 1, 1984**

東京大学地震研究所
地震予知観測室
北信微小地震地殻変動観測所

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

1984年1月1日18時04分, 東海はるか沖でM7.3, 深さ388kmの深発地震が発生した。この地震は西日本から北海道にかけて有感であった。この地震の発生後の約1時間30分から2時間30分の間に関東甲信越地方で次の3地域での地震活動の発生または活発化がみられた。

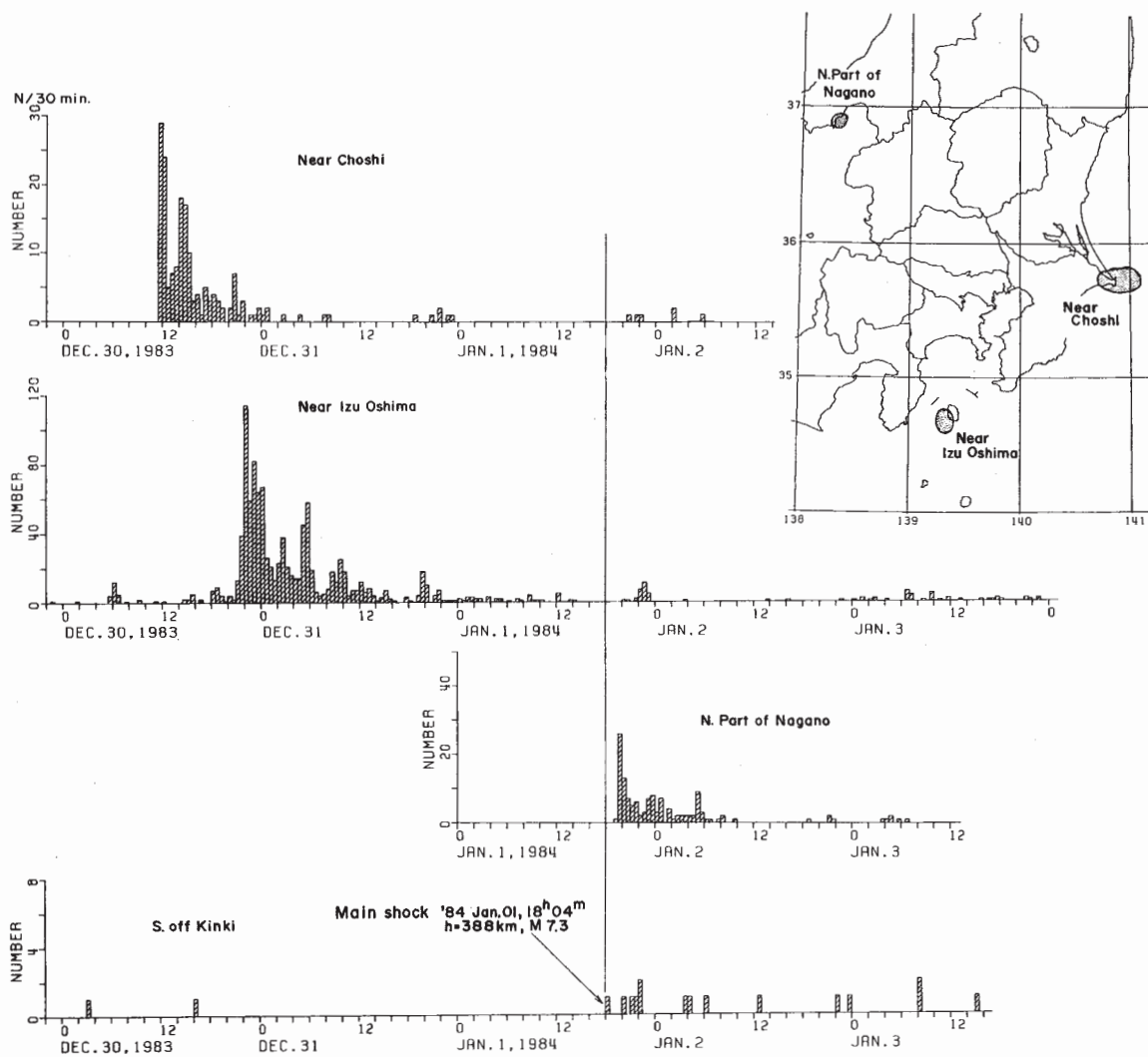
I) 長野県・新潟県境, 飯山市付近の活動: 1月1日19時35分, M4.2の地震を主震とする活動が飯山市付近で発生し1月9日頃まで続いた。この地震は19時34分にM1.8の前震をともなったがこれは東海はるか沖の深発地震の発生のおよそ1時間30分後のことであった。なおこの地域では1983年8月28日~9月10日にもM3.4を最大地震とする活動が発生している。

II) 伊豆大島西岸沖の活動: 1983年12月30日5時頃から伊豆大島西岸沖で群発活動がはじまり1月中旬過ぎにほぼ終息した。この活動は1983年12月30日20時-12月31日1時頃をその活動のピークとしその後徐々に衰え1月1日16時~18時にかけてはほとんど終息したかにみえていた。ところが20時03分頃から再び活発化した。これは東海はるか沖の深発地震の発生のおよそ2時間後のことであった。その後伊豆大島西岸沖の活動は1月3日~5日にかけて第2のピークをむかえ1月21日頃ほぼ終息した。

III) 銚子付近の活動: 1983年12月30日, 11時30分, 銚子近傍でM5.3, 深さ57km(銚子, 震度Ⅲ)の地震が発生しそれにともなう活動は1984年1月下旬頃まで続いた。なおこの活動は1983年12月31日のうちにほぼ終息したかにみえ翌年1月1日に入ってからほとんど活動が認められなかった。ところが1月1日20時36分頃から再び活発化した。これは東海はるか沖の深発地震の発生のおよそ2時間32分後のことである。その後この銚子付近の活動は1月3日頃にかけて終息した。

これら長野県飯山市付近, 伊豆大島西岸沖, 銚子付近の活動の活発化はともに1月1日18時04分の東海はるか沖の深発地震(M7.3)の発生のおよそ1時間30分~2時間30分後にみられること

が注目される。なお東海はるか沖の深発地震の震央から飯山市付近、伊豆大島西岸沖、銚子付近の活動の震央域までの距離はそれぞれおよそ 300 km, 180km, 350 km である。これらの活動の時間的推移を 30 分間隔での地震数で示したものが第 1 図である。



第 1 図 銚子付近、伊豆大島西岸沖および長野県飯山付近の地震活動の推移と 1984 年 1 月 1 日 18 時 04 分、M7.3 の東海はるか沖の深発地震（前震および余震の数と本震発生時刻を示してある）。

Fig. 1 Time sequences of the seismic activities near Choshi, near Izu-Oshima and near Iiyama, northern part of Nagano Prefecture in comparison to the occurrence of the deep earthquake far off Tokaido (or south off Kinki), 18h04m, January 1, 1984 with indications of the origin time of the main shock and the number of the foreshocks and the aftershocks.